

こじまたいばい く ひ

児島大梅の句碑

指定種別：市指定文化財

指 定 日：昭和 53 年 11 月 28 日

所 在 地：釜石市橋野町

制 作 年：文政 12(1829)年

寸 法：高さ 147 cm 幅 85 cm 厚さ 45 cm

銘 文：表面 雨の日や座敷まで来る馬の蠅 大梅

裏面 文政十二己丑八月 門人 方寸廬卓堂 樗巢卓郎



江戸の俳人児島大梅が山田の貫洞卓堂を訪ねる途中、大槌街道（和山街道）の芳形の茶屋で詠みました。文政 12(1829)年、門弟の貫洞卓堂、小林卓郎等は師匠大梅の来遊記念としてその句を刻んだこの石碑を建立しました。

児島大梅の句碑は、釜石地方で最も古い句碑であり、この時代の中央文化人との交流を物語るものです。

また、主街道であった交通路の変遷を知るうえで貴重な資料でもあります。この街道は通称塩の道とも呼ばれ、大槌から内陸へ塩を運ぶ道でもありました。芳形は、大槌からは種戸坂、和山からは切石峠という、街道中最も難所とされた場所の頂上にあたり、茶屋が 2 軒ほどありました。今もその跡が残っています。



表面



裏面